

普及活動情勢報告（令和2年9月分）

中央東農業振興センター農業改良普及課

J A 香美地区オオバ部会が総会および出荷反省会を開催



8月25日にJ A 香美地区オオバ部会の総会および出荷反省会が開催され、部会員8名と就農希望者1名が参加しました。

農業改良普及課は、担い手確保に向けた取組と斑点病の発生状況と対策について情報提供しました。参加者からは「担い手を確保し、産地を維持していきたい」「7月は雨が多かったが、ヒートポンプ夜冷や梅雨入り前に下葉を整理したことで発生を抑えられた」などの声が聞かれました。

今後も産地の課題解決に向けた取組を支援していくとともに、就農希望者への支援を継続していきます。

6次産業化の取り組み ～香美せわし会～



香美せわし会は、地元産物を活用したユズ味噌、生姜味噌の商品化を目指し、6次産業化支援チーム会で検討を重ねながら、取り組みを進めています。9月14日、香美せわし会6名は、加工品の殺菌までの製造工程や作業の分担、加熱による品質の変化の確認、原価計算や今後のスケジュールについて検討し、農業改良普及課は、それぞれの確認や助言を行いました。

今後も、商品の完成、販売に向け、6次産業化支援チーム会で、専門アドバイザーや地域支援企画員と連携しながら、取り組みを支援していきます。

親元就農者のスムーズな経営継承のために



農業改良普及課では産地の持続的な維持・発展に向けて、スムーズな経営継承の推進に取り組んでいます。

管内の後継者2名が農業担い手育成センターで研修中のため、8月27日の経営継承の講義に合わせて、研修内容と現場指導を上手く繋げるため職員も研修に参加し、後継者との意見交換も行いました。

後継者からは「親にも今回の研修内容を知って欲しい」「継承計画作成の時には農振センターにも相談に乗って欲しい」といった意見が出されました。

農業改良普及課では、親子が共通の認識を持って継承に取り組んでいけるように支援していきます。

南国市土地利用型園芸農業研究会の活動を支援
～加工用キャベツの全自動移植機の実演会の開催～



農業改良普及課は、南国地区の大規模露地栽培に適する有望品目の掘り起こしと、栽培推進の取り組みを支援しています。

農業改良普及課は、南国市土地利用型園芸農業研究会が、8月25日に省力化を目的とした全自動移植機による加工用キャベツセル苗定植の実演会開催を支援しました。

当日は、関係機関や農機メーカーと連携して、全自動移植機での定植時間と作業性について調査を行い、その結果を説明しました。参加者からは、全自動定植機や作業効率の良さについて熱心な質問が出ていました。

農業改良普及課は、今後も、研究会の活動を支援していきます。

J A 香美地区フルーツトマト部会が令和3園芸年度1回目の現地検討会を開催



9月10日、J A 香美地区フルーツトマト部会が現地検討会を開催し、生産者13名が参加しました。今回は8月上旬定植の3圃場を巡回し、ハウス内温度の低下、灌水管理をポイントに検討しました。生産者は被覆資材（3圃場）や細霧装置（1圃場）を利用しており、灌水は各圃場の特徴に合わせて行っていました。

農業改良普及課は、各生産者の灌水量を調査しており、生育調査結果と共に情報提供し、生産者の栽培技術向上を支援していきます。

前作の反省と今作の目標設定 ～シシトウ重点指導農家面談～



農業改良普及課は南国地区のシシトウで、モデル農家の育成による地域農家への技術波及に取り組んでいます。

今回は、令和2園芸年度に選定したシシトウ重点指導農家を対象に、個別面談を行いました。面談では、生産者とともに令和2園芸年度の栽培を振り返りながら、課題を探り対策を検討したうえで、次作の目標収量や所得を設定しました。生産者からは、「病害虫の初発を見逃さない」、「生育に応じた環境制御にこれからも気をつける」といった前向きな声が聞かれました。

今後は、令和3園芸年度重点指導農家への支援を行い、モデル農家の育成に向け取り組んでいきます。